

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド（毎月決算型）」は、2019年5月10日に第252期決算を行いました。

当ファンドは、インカム・ゲインの確保と信託財産の成長を目指しており、当作成対象期間につきましてもそれに沿った運用を行いました。

ここに謹んで当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

第252期末(2019年5月10日)

基準価額	5,640円
純資産総額	55,185百万円

第247期～第252期

騰落率	4.5%
分配金(税込み)合計	120円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

(注) 純資産総額の単位未満は四捨五入して表示しています。

(注) 基準価額および分配金は1万口当たりです。(以下同じ)

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、弊社ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
ホームページにアクセス

(<https://www.barings.com/jp/individual>)

⇒「投資信託情報」を選択⇒「運用報告書一覧」を選択
⇒当ファンドを選択

BARINGS

交付運用報告書

BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド (毎月決算型) (愛称) ウィンドミル

追加型投信/海外/債券

第247期(決算日2018年12月10日) 第250期(決算日2019年3月11日)
第248期(決算日2019年1月10日) 第251期(決算日2019年4月10日)
第249期(決算日2019年2月12日) 第252期(決算日2019年5月10日)

作成対象期間(2018年11月13日～2019年5月10日)

運用報告書に関する弊社お問い合わせ先

ベアリングス・ジャパン株式会社 営業本部

電話番号：03-4565-1040

受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで

※お客様の口座内容などに関するご照会は、お申込みされた販売会社にお尋ねください。

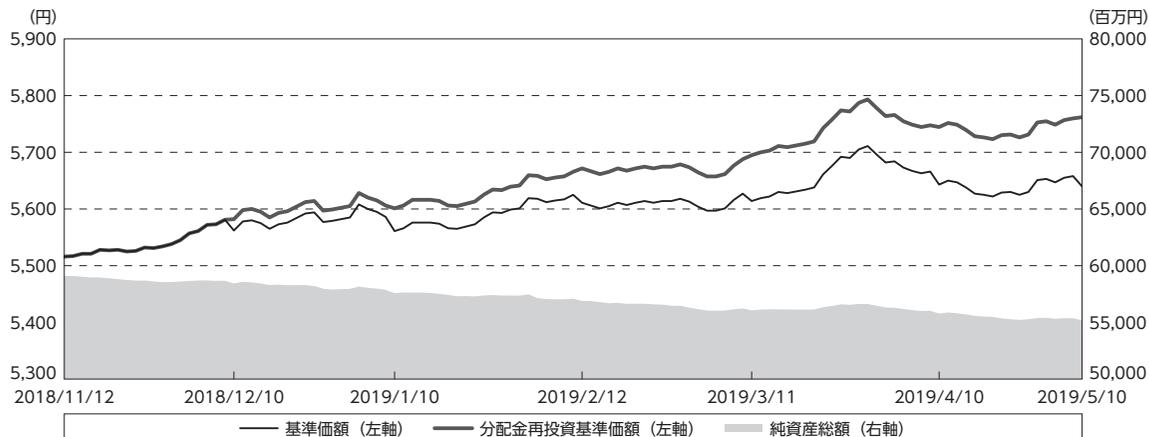
ベアリングス・ジャパン株式会社

東京都中央区京橋二丁目2番1号 京橋エドグラン7階

<https://www.barings.com/jp/individual>

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移 (2018年11月13日～2019年5月10日)



第247期首：5,516円

第252期末：5,640円 (既払分配金:120円)

騰落率：4.5% (分配金再投資ベース)

(注) 作成期間とは、表紙記載の作成対象期間を示します。(以下同じ)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様ご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2018年11月12日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。(以下同じ)

(注) 上記既払分配金は、作成期間中の分配金(税込み)合計額です。

○基準価額の主な変動要因

主要投資対象である「ベアリング ワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド」における当作成期間中の基準価額は5.3%の上昇となりました。

上昇要因

■金利低下により保有していたオーストラリア、米国、ニュージーランド等の債券価格が上昇したこと、保有する債券からの利息収入が基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

■為替ヘッジに伴うヘッジコスト等が基準価額の下落要因となりました。

1 万口当たりの費用明細（2018年11月13日～2019年5月10日）

項 目	第247期～第252期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 43	% 0.768	(a) 信託報酬＝作成期間中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(21)	(0.371)	投信会社分は、ファンドの運用、基準価額の算出、法定書類等の作成等の対価
（販売会社）	(21)	(0.371)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(1)	(0.026)	受託会社分は、運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	1	0.021	(b) その他費用＝作成期間中のその他費用÷作成期間中の平均受益権口数
（保管費用）	(1)	(0.020)	保管費用は、資産を海外で保管する場合の費用
（監査費用）	(0)	(0.001)	監査費用は、ファンドの監査にかかる費用
合 計	44	0.789	
作成期間中の平均基準価額は、5,618円です。			

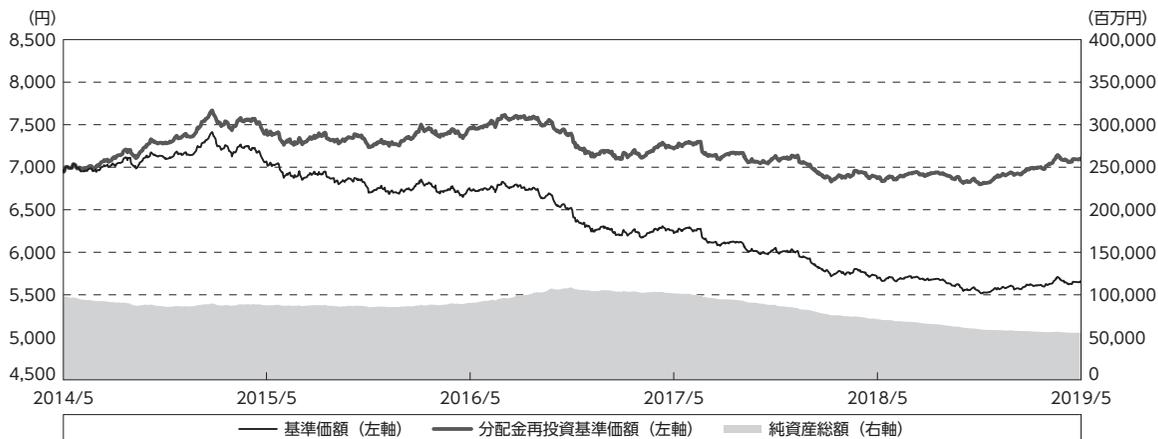
(注) 作成期間中の費用（消費税等のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。なお、(b) その他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 信託報酬および監査費用にかかる消費税は作成期間末の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

最近5年間の基準価額等の推移 (2014年5月12日～2019年5月10日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2014年5月12日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

	2014年5月12日 決算日	2015年5月11日 決算日	2016年5月10日 決算日	2017年5月10日 決算日	2018年5月10日 決算日	2019年5月10日 決算日
基準価額(分配落ち) (円)	6,956	7,068	6,730	6,225	5,691	5,640
期間分配金合計(税込み) (円)	—	360	360	290	240	240
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	6.9	0.4	△3.3	△4.8	3.4
純資産総額 (百万円)	97,635	87,890	90,452	101,409	71,125	55,185

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境（2018年11月13日～2019年5月10日）

◎債券市場

当作成期前半は、2018年12月末にかけて、原油価格の下落、世界的な株安に伴う投資家のリスク回避的な動きに加え、米連邦公開市場委員会（FOMC）にて2019年の利上げ見通しの下方修正、長期の均衡金利が下方修正されたことなどを背景に金利は低下基調となりました。

当作成期後半は、FOMCにて当面の利上げ停止が示されたこと、欧州中央銀行（ECB）が政策金利を少なくとも2019年末まで据え置くことを表明したこと、米中貿易摩擦懸念が再燃したことなどを受け、引き続き金利は低下基調で推移しました。

当作成期の債券市場の動きを10年国債利回りで見ると、米国では当作成期首の3.2%から当作成期末2.5%へ低下、ドイツでは0.4%から-0.1%へ低下しました。

◎為替市場

為替市場では、米国や欧州の中央銀行の金融緩和姿勢、世界的な景気減速等を受け、円は米ドルやユーロに対して強含む展開となりました。当作成期の米ドル・円相場は、当作成期首の113円台から当作成期末の109円台へ米ドル安・円高が進行しました。

■ 当ファンドのポートフォリオ（2018年11月13日～2019年5月10日）

<BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド（毎月決算型）>

「ベアリング ワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド」を高位に組み入れました。

<ベアリング ワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド>

<デュレーション>

米国の一部指標にも景気のピークアウトの兆しが見られ、これまでの米国の利上げの累積的な影響や貿易摩擦の世界経済に対する懸念から、2019年以降の米国の利上げ停止を債券市場が織り込む可能性も予想しました。また、中国景気の減速、一部新興国の信用不安の増大などへの警戒感も払拭できないことから、長期金利の上昇にも限界があるものと予想しました。ファンドのデュレーション*については、当作成期初の段階ではポートフォリオ全体で約7.7年とし、当作成期中の金利上昇局面で段階的にデュレーションを長期化し、当作成期末時点で約7.6年としました。

<国別配分>

当作成期初は、中央銀行の金融緩和姿勢が明確なニュージーランド、ユーロ圏、オーストラリアのほか、米国等への厚めの配分を行いました。当作成期中の金利低下局面でユーロ圏（スペイン等）、英国、米国等の利益確定を図り、カナダ、オーストラリア、スウェーデン、ノルウェー等へ入れ替えを実施しました。現在利上げが実行されているものの、欧州経済に大きく依存していることから、今後、欧州中央銀行（ECB）に追随して金融緩和的な政策に変更する可能性を勘案し、ノルウェー国債およびスウェーデン国債の新規組入れを開始しました。新興国では、財政規律の悪化への警戒感からポーランドの配分を減らし、メキシコ中心の厳選配分としました。

<通貨別配分>

当作成期は、外貨全体の円に対する為替のヘッジ比率は為替変動リスクを低減するために当作成期を通して高位に保ち、当作成期末にかけて、景気後退による各国との金融政策の格差縮小に伴う円高進行への警戒感から、ポートフォリオの対円での為替ヘッジ比率を100%に近い水準としました。また、円以外の通貨では、米国の利上げの仕上げに伴い、今までの米ドル独歩高の調整を見込み、米ドルの買い持ち幅を縮小、カナダドルを小規模な買い持ちから売り持ちに転換、商品市況が上昇するリスクに備え、ノルウェークローネを買い持ちとしました。新興国通貨では、新興国全般へは慎重姿勢とし、ポーランドズロチ、メキシコペソの買い持ち幅を縮小しました。

*「金利変動に対する債券価格の感応度」を示すもので、デュレーションが大きいほど、金利変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

【組入債券の種別構成】

作成期末（2019年5月10日現在）

No.	種 別	比率 (%)
1	地方債証券	44.6
2	国債証券	27.4
3	特殊債券	16.5
4	普通社債券	6.4

※比率は、マザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

【組入債券の通貨別構成上位5通貨】

作成期末（2019年5月10日現在）

No.	通 貨	比率 (%)
1	米ドル	22.9
2	オーストラリアドル	15.8
3	カナダドル	14.9
4	ニュージーランドドル	14.3
5	英ポンド	9.9

※比率は、マザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

【組入債券の上位5銘柄】

作成期末（2019年5月10日現在）

No.	銘柄名	クーポン (%)	償還日	国 (地域)	比率 (%)
1	オーストラリア・クイーンズランド州財務公社債	6.5	2033年3月14日	オーストラリア	7.7
2	ニュージーランド地方自治体資金調達機関債	4.5	2027年4月15日	ニュージーランド	5.3
3	オーストラリア・ニューサウス・ウェールズ州財務公社債	6.0	2030年5月1日	オーストラリア	5.1
4	ニュージーランド地方自治体資金調達機関債	5.5	2023年4月15日	ニュージーランド	4.4
5	欧州投資銀行債	5.625	2032年6月7日	国際機関	3.5

※比率は、マザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

■ 当ファンドのベンチマークとの差異（2018年11月13日～2019年5月10日）

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定していません。

分配金 (2018年11月13日～2019年5月10日)

基準価額の水準や市況動向等を勘案し、第247期から第252期の各決算期では、1万口当たりそれぞれ20円（税込み）を分配させていただきました。なお、収益分配金に充てなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて元本部分と同一の運用を行います。

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第247期	第248期	第249期	第250期	第251期	第252期
	2018年11月13日～ 2018年12月10日	2018年12月11日～ 2019年1月10日	2019年1月11日～ 2019年2月12日	2019年2月13日～ 2019年3月11日	2019年3月12日～ 2019年4月10日	2019年4月11日～ 2019年5月10日
当期分配金	20	20	20	20	20	20
(対基準価額比率)	0.358%	0.358%	0.355%	0.355%	0.353%	0.353%
当期の収益	19	15	20	16	20	15
当期の収益以外	0	4	-	3	-	4
翌期繰越分配対象額	120	115	117	114	114	109

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。小数点以下第4位を四捨五入して表示しています。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下四捨で算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

<BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド（毎月決算型）>

引き続き、「ベアリングワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド」を高位に組入れて運用を行います。

<ベアリングワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド>

米国では、利上げ停止が既に市場に織り込まれ、利下げの可能性が浮上しています。米国以外では、ECBは政策金利を少なくとも2019年末まで据え置くことが表明され、その他各国の中央銀行も金融引き締め姿勢を後退、もしくは緩和姿勢を強化しています。景気後退懸念が現実味を増せば世界的な金融緩和競争に至る展開も予想され、世界的に長期金利の低下要因になるものとみています。

国別では、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドでは金融政策を睨んだ満期構成戦略を実施し、金融緩和への傾斜が予想されるニュージーランドや米国などの中長期ゾーンへの一段の配分増を検討します。

通貨配分については、ポートフォリオの対円での為替ヘッジ比率は80%～100%を基本レンジとし、円高が進行した局面ではヘッジ比率を引き下げ、円安が進行した局面ではヘッジ比率の一段の引き上げを検討します。円以外の通貨の主要なポジションとしては、金利上昇と資源国通貨高が連動するシナリオに備え、ノルウェークローネやオーストラリアドルなどの買い持ちポジションを維持する方針です。政策金利を少なくとも2019年末まで据え置くことが表明されたユーロの売り持ちポジションも維持する方針です。

お知らせ

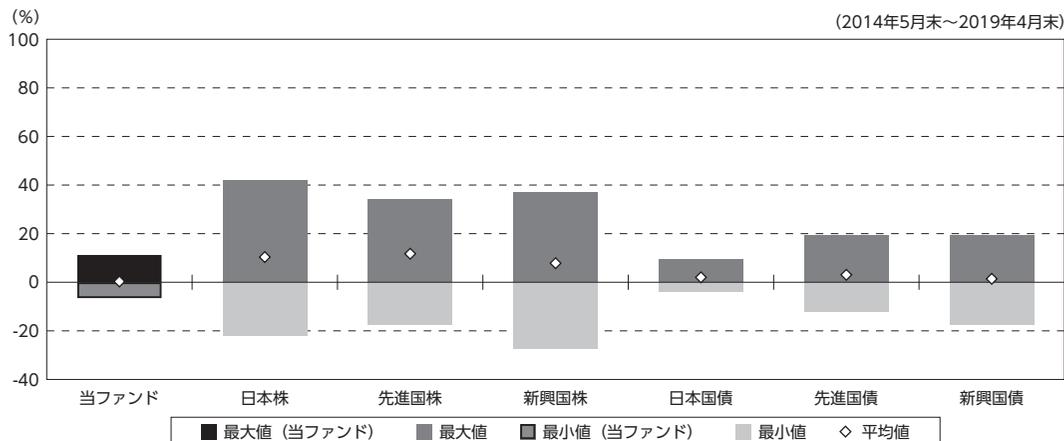
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	信託期間は1998年4月28日から無期限です。（当初、クローズド期間は1998年10月27日までです。）	
運用方針	ベアリングワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド受益証券に投資を行い、インカム・ゲインの確保とともに信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。	
主要投資対象	BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド（毎月決算型）	ベアリングワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	ベアリングワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド	世界の投資適格格付けの公社債を主要投資対象とします。
運用方法	<p>①主としてマザーファンドの受益証券への投資を通じて、以下の方針に基づき行います。</p> <p>a) 世界の投資適格格付けの公社債に分散投資を行い、インカム・ゲインの確保と信託財産の長期的な成長を目指します。ただし、投資適格の格付けを得ていない場合でも、投資適格債に相当すると判断した場合は投資を行うことがあります。</p> <p>b) 為替変動リスクのヘッジ目的および円ベースでの投資収益の確保を目的として、外国為替の予約取引を機動的に行います。</p> <p>c) 信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、先物取引を行うことができます。</p> <p>d) 公社債の組入比率は、原則として高位に維持することを基本とします。</p> <p>②マザーファンドの受益証券の組入比率は、高位に維持することを基本とします。</p> <p>③マザーファンドの運用の指図に関する権限をベアリング・アセット・マネジメント・リミテッド（英国法人）へ委託します。</p>	
分配方針	毎月決算（原則として10日。ただし、休業日の場合は翌営業日。）を行い、経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額の範囲とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託会社が分配金額を決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合は分配を行わないことがあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	11.2	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△6.5	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	0.3	10.4	11.7	7.8	2.0	3.1	1.4

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年5月から2019年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示し、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額の年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディパーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

(注) 詳細は最終ページをご参照下さい。

当ファンドのデータ

組入資産の内容（2019年5月10日現在）

○組入上位ファンド

ファンド名	第252期末
	%
ベアリング ワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド	100.5
組入銘柄数	1 銘柄

(注) 組入比率は純資産総額に対するマザーファンドの評価額の割合です。

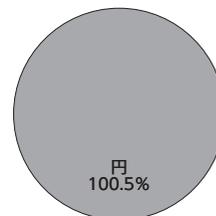
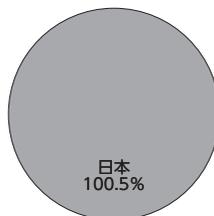
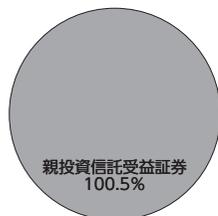
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しています。

(注) 計理処理上、組入比率が100%を超える場合があります。（以下同じ）

○資産別配分

○国別配分

○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しています。

純資産等

項 目	第247期末	第248期末	第249期末	第250期末	第251期末	第252期末
	2018年12月10日	2019年1月10日	2019年2月12日	2019年3月11日	2019年4月10日	2019年5月10日
純資産総額	58,436,956,619円	57,579,607,491円	56,893,852,339円	56,062,644,150円	55,774,703,487円	55,185,955,853円
受益権総口数	105,070,154,743口	103,543,645,998口	101,397,077,005口	99,856,084,282口	98,838,027,441口	97,848,553,414口
1万口当たり基準価額	5,562円	5,561円	5,611円	5,614円	5,643円	5,640円

* 当作成期間中（2018年11月13日～2019年5月10日）における追加設定元本額は1,080,617,207円、同解約元本額は10,343,277,069円です。

組入上位ファンドの概要

ベアリング ワールド・ボンド & カレンシー・マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2017年11月11日～2018年11月12日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) そ の 他 費 用	4	0.039
(保 管 費 用)	(4)	(0.039)
(そ の 他)	(0)	(0.000)
合 計	4	0.039

期中の平均基準価額は、11,038円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

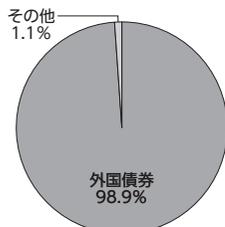
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

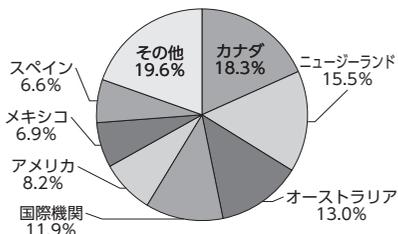
【組入上位10銘柄】

	銘 柄 名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	オーストラリア・クイーンズランド州財務公社債 6.5% 2033/3/14	地方債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	6.0
2	オーストラリア・ニューサウス・ウェールズ州財務公社債 6% 2030/5/1	地方債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	4.9
3	国際復興開発銀行債 7.625% 2023/1/19	特殊債券	米ドル	国際機関	4.2
4	ポーランド国債 5.75% 2029/4/25	国債証券	ポーランドズロチ	ポーランド	4.1
5	欧州投資銀行債 6% 2028/12/7	特殊債券	英ポンド	国際機関	4.0
6	ニュージーランド地方自治体資金調達機関債 4.5% 2027/4/15	地方債証券	ニュージーランドドル	ニュージーランド	3.9
7	ニュージーランド地方自治体資金調達機関債 5.5% 2023/4/15	地方債証券	ニュージーランドドル	ニュージーランド	3.8
8	スペイン国債 5.15% 2044/10/31	国債証券	ユーロ	スペイン	3.6
9	スペイン国債 5.9% 2026/7/30	国債証券	ユーロ	スペイン	3.0
10	欧州投資銀行債 5.625% 2032/6/7	特殊債券	英ポンド	国際機関	2.7
	組入銘柄数			98銘柄	

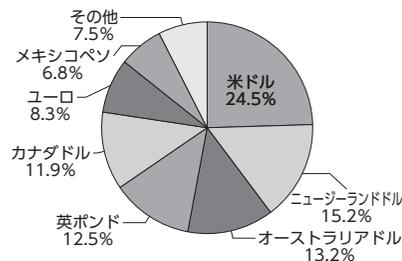
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2018年11月12日現在のものです。

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

(注) 組入上位10銘柄の国(地域)および国別配分につきましては発行国ベースです。

(注) 通貨別配分は組入債券にかかる通貨別構成比です。

○代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数

日本株－東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株－MSCI－KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株－MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債－NOMURA－BPI国債

先進国債－FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債－JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

MSCI－KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

NOMURA－BPI国債

野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA－BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLC に帰属します。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。